

平成十六年八月五日提出
質問第六三号

人口減少時代の到来に関する質問主意書

提出者 伴野 豊

人口減少時代の到来に関する質問主意書

日本経済の成長とともに国民の嗜好も変化し、女性の高学歴化、晩婚化、未婚化、住環境の問題、子育て費用の増大なども相まって、わが国の合計特殊出生率は一九七五年以降低下傾向にあり、二〇〇三年には一・二九にまで低下した。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、わが国の人口は二年後の二〇〇六年にピークを迎え、ピークから一〇年後には一八〇万人が減少する見通しである。また、六五歳以上の高齢者比率が上昇し、わが国では前例のない少子高齢化社会が到来することとなる。

こうした潮流の中で、わが国社会については今後、労働力人口の減少、社会保障制度の破綻、国の活力低下などが懸念される。

これらをふまえ今後、少子高齢化時代における諸問題の改善に向け、積極的に取組みを行うことが必要と考えられる。

従って、次の事項について質問する。

- 1 かかる少子高齢化時代の到来についていかなる認識をもっているか。
- 2 少子高齢化、およびこれに起因する労働力人口の減少、社会保障制度の破綻、国の活力低下対策として

いかなる計画をたてているか。目標とする時期、数値等を含め具体的に回答されたい。また、これらの対策の実効性について、現時点での見通しはいかがか。

3 2項について、目標が達成できなかった場合の責任はどこに帰属するか。

右質問する。